



Title	台湾活動記録（2017年8月20日～9月2日）
Author(s)	大坪，慶之
Citation	近代東アジア土地調査事業研究ニューズレター. 2019, 9, p. 92-95
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/84917
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

-*-

(3) 台湾活動記録 (2017 年 8 月 20 日～9 月 2 日)

大坪慶之

8 月 20 日 (日) 【関空発⇒台北着】日本航空 JL813 便など

片山剛 (大阪大学教授) が JFE21 世紀財団の調査で、稲田清一 (甲南大学教授)・田口宏二郎 (大阪大学准教授) が別の科研 (片山科研) の調査で、小林茂 (大阪大学名誉教授) が別の科研 (小林科研) の調査で、関西国際空港から台北に到着。大坪慶之 (三重大学准教授) も小林科研の調査で、中部国際空港から台北に到着。宿舎は、福華国際文教会館。

8 月 21 日 (月) 国史館 (新店・新北市新店区)

全員で国史館 (新店) の閲覧室へ行き、調査を開始する。今回の目的は、1930～40 年代の南京市における土地調査事業について、過去二度の科研プロジェクトで存在を知りつつも、十分に閲覧できていなかった檔案の調査することである。まずは日本で各自が申請し、

すでに許可の下りた資料から取りかかる。片山は 1930 年代の総登記時における古い契拠の取り扱いに関する規定の変遷について、小林は中華民国期の気象関係、稲田は不動産に対する税金（地価税・房捐）、田口は登記申請期間を過ぎた土地に対する処理や天主堂の登記、大坪は旗地についての資料を見る。

8 月 22 日（火） 国史館（新店）・中央気象局（台北市中正区）

午前中は新店の国史館にて、前日の作業を継続する。午後、小林は別行動を取って中央気象局へ行き、同局の所蔵資料について資料科長の沈里音氏に説明を聞く。残る四名は、国史館に残り、閲覧を続ける。

8 月 23 日（水） 国史館（新店）・中央気象局

午前中は、前日と同じく全員で新店の国史館へ行く。この日は、閲覧を続けつつ、必要な資料の写真撮影を行う。小林は、午後から中央気象局へと向かい、同局所蔵の資料を調査する。片山・稲田・田口・大坪は、新店での作業をいったん完了させる。

8 月 24 日（木） 国史館（台北本館・台北市中正区）・中央気象局

片山・稲田・田口・大坪の四名は、国史館の台北閲覧室に行き、申請していた資料をデジタル画像で見る。最初に、顔淑娟 科長からデジタル画像の閲覧方法、また複製の種類・料金等についてレクチャーを受ける。画像 1 頁あたり 20 元と高いので、どのように資料を収集するか検討する。この日の調査では、片山は 1937 年 8～12 月に実施された日本軍による南京への爆撃の被害について、登記文書に被害情報が登場するかどうか重点をおいて閲覧する。稲田は地価税・房捐について、田口は登記制度関係、大坪は旗地に関する資料を閲覧する。

小林は別行動を取り、引き続き中央気象局にて資料を収集する。

8 月 25 日（金） 国史館（台北本館）・中央気象局

午前中は、前日と同じく二班に分かれて行動する。片山・稲田・田口・大坪の四名は国史館の台北閲覧室へ赴く。片山・大坪は南京事件時の被害状況に関する情報を得るべく登記文書を閲覧する。稲田・田口は前日の作業を継続する。小林は、中央気象局にて資料の収集を続ける。午後、小林が国史館へ移動し、台北閲覧室にて全員で調査を行う。

夜、南天書局の魏徳文氏、中央研究院の廖法銘氏と会食する。

8 月 26 日（土） 台湾大学図書館（台北市大安区）・国家図書館（台北市中正区）

片山・小林・大坪は、台湾大学図書館へ行き、『南京大屠殺史料集』（全 72 冊）の第 66 冊に収められている南京第二歴史檔案館が所蔵する被害届を確認する。しかし、資料からは時間・場所が特定できないなど、利用が難しいことが判明する。そこで、『申報』や『中

央日報』の記事から、日本軍による南京への爆撃に関するデータを集めることにした。稲田は国家図書館へ行き、地価税関係の資料を収集する。田口は、この一週間の調査についてまとめる。

17:30 からミーティングを行う。各自が行った調査前半での結果を報告し、来週の計画を話し合う。

8月27日（日） 台湾大学図書館

片山・小林・稲田・大坪は、台湾大学図書館へ行く。片山は、南京への爆撃や南京の人口調査に関する書籍を閲覧する。稲田は、『中央日報』から地価税に関する資料を収集する。小林・大坪は、南京爆撃に関する記事を、『申報』『中央日報』から集める。田口は別行動を取り、これまでの調査資料の整理を行う。

8月28日（月） 国史館（台北本館）・台湾大学図書館

片山・稲田・田口・大坪の四名は、台北の国史館に行き、南京市の土地登記文書や登記関係の檔案を閲覧する。土地登記文書では、特に1937年の爆撃で被害が出た可能性のある太平路沿いのものからデータを集める。小林は、台湾大学図書館へ行き、昨日の作業を続けるとともに、気象関係の論文を収集する。

8月29日（火） 国立台湾図書館（新北市中和区）・国史館（新店）・台湾大学図書館

この日は、三班に分かれて行動する。片山は、国立台湾図書館へ行き、2月に出版した研究チームの研究書を寄贈し、その後に資料を閲覧する。小林・田口は、新店の国史館を再訪し、それぞれ新たに閲覧許可の下りた気象関係・土地登記関係の資料を調査する。稲田・大坪は台湾大学図書館を訪れ、『申報』『中央日報』から、南京市の地価税・房捐や爆撃に関する記事を集める。

8月30日（水） 中央研究院近代史研究所図書館・同檔案館（台北市南港区）など

この日も、三班に分かれて活動する。片山・稲田・大坪は中央研究院に行き、近代史研究所の図書館や檔案館で渡洋爆撃および土地調査に関する資料を収集する。小林は午前中に中央気象局、午後に台湾大学図書館を訪れ調査を継続する。田口は国史館の台北閲覧室にて、一昨日までの作業の続きを行う。

午後、片山・大坪は中央研究院歴史語言研究所の于志嘉教授を訪問し、2月に出した研究書を贈呈し、陳慈玉教授への贈呈分をあずける。また夜には、同近代史研究所の巫仁恕教授ならびに台湾で在外研究中の堀地明教授（北九州市立大学）と会食する。

8月31日（木） 台湾大学図書館・国史館（台北本館）

片山・稲田・大坪は台湾大学図書館へ行き、南京爆撃関係の資料を収集する。この日は

『申報』などの新聞記事に加えて、特に中国の先行研究ならびにそこに引用されている資料を確認する。田口は別行動を取り、台北の国史館にて作業を継続する。

早朝、小林が帰国する。

9月1日（金） 国史館（台北本館）・中央研究院近代史研究所図書館

午前中は、片山・稲田・田口・大坪の四名で台北の国史館へ行き、新たに許可の下りた南京登記文書を中心に、資料の閲覧・収集を行う。午後、片山・大坪は中央研究院に移動する。最初に廖汝銘氏の研究室を訪問し、調査機材を次回調査時まで保管しておいてもらう。その後、近代史研究所の図書館にて一昨日の作業を継続する。

夜、国史館の呉密察館長と会食し、今回の調査に関するお礼を述べるとともに、次回調査への協力をお願いする。

9月2日（土） 【台北発⇒関空着】日本航空 JL816 便など

片山・稲田・田口・大坪の四名が、調査を終え帰国する。
